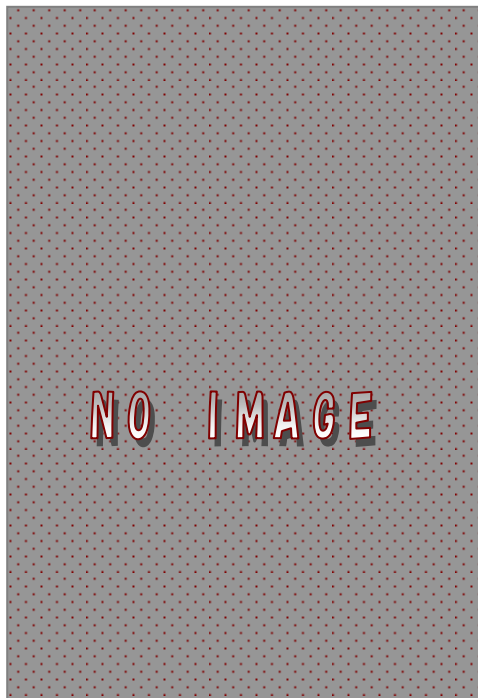


## 今回のおすすめメニュー



# 世界がぼくを笑っても

笹生陽子 著

講談社

請求記号：9134 所蔵館：勝連

### ちょっとあじみ

貧乏×父子家庭の中学2年生、北村ハルト。ちなみに漢字で書くと、「温」もりのある「人」となる。親父は、転職を繰り返し、趣味はギャンブルと草野球。家を出たおふくろは、美容師をしていて、ずいぶん口べただったみたい。離婚するときも、親父のもとへ1通のメールを送っただけだったらしい。おかげで、「温もりのない家庭」で暮らしている。

そんなわけで、せめて、スクールライフだけでも、無難に平和にすごしたい、と思い、部活もせず、塾にも行かず、常に単独行動…。だが、そんなオレのクラスの担任になったのが、小津ケイイチロウ先生だった。やぼったく、軟弱そう。始業式の壇上で、小津先生は緊張しすぎて息つきをわすれ、たおれてしまう…。「だいじょうぶなのか、こんなんで」…。

クラスみんなが呆れるほど頼りない小津先生。でも、「回り道をして育った」という小津先生はとても魅力的なキャラクター（もしかしたら、だれよりも強い人なのかも）。

小津先生と出会い、どこか冷めた感じで、まわりをみているハルトにもちょっとづつ変化が??そして、いつもダメっぷりを存分にみせている、小津先生を含め、まわりの大人たちの活躍は、はたしてあるのか!!

学校非公式HPや少し荒れた学校、思春期の考える友達・家族、現代の少し気になる話題をちりばめながらも、さわやかで「いましかない」と立ち上がりたくなるような小説です。